
collapse road

桜藍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

collapse road

【Zコード】

N7194M

【作者名】

桜藍

【あらすじ】

『3つの世界』は、確実に崩壊の道へと歩んでいた・・・。

都内に住む少年『神林撫子』は1学期終了式の日、秘かに想いを寄せていた少女『宮野知世』と一緒に、突然の『戦争ゲーム』に巻き込まれる。

続々と『別の世界』から現れる人々達。今まで無関係だった少年・少女達は『1つの希望』に賭け、色々な人々と関係を築き上げてゆく・・・。

其々の想いと共に、『3つの世界』の崩壊を阻止することができたのか？

少年・少女達の、心の成長を描いた物語。

- - - プロローグ - - - (前書き)

初めての小説です。

駄文ばつかですが最後まで読んでくれると、とても嬉しいです。
それでは、本文どうぞ。

- - - プロローグ - - -

- - - プロローグ - - -

この世には、『3つの世界』が在ると云われている。

1つ目は『平和に満ち足りた世界』

2つ目は『戦いの耐えない世界』

そして、3つ目は『異様な者しかいない世界』

其々の世界には、世界を纏める『王』がいる。

其々の世界の『王』3人は、世界を『創る』時に決まりを一つ決めた。

それは、『自分の世界以外に往き、戦争を起こす事を禁じる』
決まりだ。

しかし時は経ち、新たな『王』になつた者は、決まりを訊いてふと想つた。

「こんな決まり、オレ達で壊そう」

3人の『王』の内2人の『王』は賛成したが、1人の『王』は反対をした。

そんな『王』を見て、2人の『王』は怒り反対の『王』を殺した。

2人の『王』は死んだ『王』だった身体を食い千切り、またふと想つた。

「こいつの世界で戦争を起こそう」

そう云つと2人の『王』は、戦争を起こす日を『10年後』にし、自分達の世界へ還つていった。

-----『3つの世界』は、雑ざる事を許されない。

-----雑ざる同時に、その世界は壊れる。

そう、

『平和に満ち足りた世界』は-----。

- - プロローグ - -

E N D

- - - プロローグ - - - (後書き)

初めましてー!」の小説を書かせてもらひてます、『日本遼』(やまもとはるか)と云います。

ちなみに、本名ではないですよ。(誰も聞いてねーよ)

そんな訳で(どんな訳!?)ちまちまと掲載していきたいと思いま

すので、末永く宜しくお願ひします!—!

- - - 1・平和の終わる日 - - - 撫子視点

7月に入り、ジメジメとする時期になつた。
俺、神林撫子^{かみばやしなでこ}16歳。（男だからな）只今、女の子に告つてます。

「…………はい？」

分かつてはいた、この反応が来るのは。でも俺は、この人しか好きになれない。そう思い
俺は告つたのだ。

「えつと…………初対面…………ですよね？」

「はい」

「あつ・・・・御免なさいっつ――！」

そう云ふと女の子は、素早く走り去つていつた。

本日15回目の失恋。ああ、俺はなんと罪深い男なんだ。

・・・・・・・・・と、まあ嘘はここまでにしといで。

俺の名前と年齢以外、話した事全部嘘です。はい。

何故、こんな嘘をつくのか。其^それには理由^{わけ}があるんですよ。

まあ簡単に云ふと、今クラスで流行つていて『下敷きピンポン』で、見事に35人中最下位と云つ

記録を出し、その罰ゲームでお嬢様学校に通つてゐる女の子を、

15人告る事になり……。

ええ、見事に15人全員に振られました。

「…………精神的に疲れた。」

俺は近くにある公園のベンチで、休むことにした。

「あ、あ、～、眠ねみい。ふああ……。」

俺はベンチに寝転んで、寝る事にした。

ちなみに只今の時刻、午前11時57分。え?何故時刻を云つたのかだつて?

一様な。云つたほうが良いって作者・・じやなくて、遠くから声が聞こえたもんで。

話を戻して。学校はと云つと、今日は終業式だった為に午前中に終わつたのだ。

にしても、校長の話長かつたな……。
・・・・・ふああ。あ～、本当に眠まじい。いいや、もうこのまま寝ちゃ……。

「…………ピチャチャチャツ!――!――!

「うわあつ!？」

突然、俺の顔面に大量の水が振つてきた。
こんな事をする奴と云つたら……。

「宮野さんつー毎度毎度、俺の顔面にミネラルウォーターをぶ

つ掛けの癖、ビーにかしろっ！…

「何云つてるの？私は撫子君が寝てるのを見ると、どつかの中年サラリーマンに見えて悲しい人に思われないように、起こして上げてるのよ。貴方の為に」

「それが、余計だつづーの」

俺は鞄からタオルをだし、顔や髪を拭き始めた。

そんな俺を見て、宮野さんは小さく優しい溜め息をついた。
宮野知世さん。同じ中学校に通つていて、バレー部キャプテン同士として仲が良かつた。

今は別々の高校だが、暇さえあれば遊びに行く仲だ。

・・・・実は秘かに恋心を抱いてる人だったりする。当の本人は、全く気付いていないが。

「で、今日は何処に行くの？」

「何時^{いつ}もの喫茶店で良くなーか？」

「良いわね、あそここのケーキ何個食べても美味しいのよね」

「いいつ、またケーキ食うのか？」

先週行つた時も、確かケーキ10個ほど食つたような・・・・・

・・・

「そんなんだから、太っちゃ」ビチャヤツー！

「ぎゅつー！？」

「レディに対して、失礼よ。撫子君」

「だからって水かけんなつーつーか畠野やんケーキー〇個食ひてんだから、

十分にレディじゃねーと

「また、かけて欲しいの（黒）」

「いえ、遠慮致します」

「わがみやび」

「ちよつ！？」宮野さんが拭いてくれるって……！うつ嬉しいけど、何か……人前じゃ恥ずい／＼＼＼＼。

丁度、宮野さんが持つてたタオルが左目に重なった。

その刹那

『誰かつつ！助けて―――つつ―――』

『ママー ハハ パパ』

俺の目に、全く別な世界が映つた。

まるで戦争が当たり前な世界が視えた。

この世界とは、真反対の世界が - - - - - 。

「撫子君？大丈夫？」

え？
・
・
・
・
・
あつ
ああ、
大丈夫だ
・
・
・
・

「そり・・。なら戻いけど・・・」

そして俺達は、また歩き出した。
にしても、さっきのはいったい何だつたんだ？

「撫子君、本当に大丈夫？顔色悪いわよ」

「え？ そ、う・・・・か・・？」

「 そうよ、何時もの元気が無いし・・・。ちょっと水、かけ過ぎたかしら・・・。」

「だつ大丈夫だつて！－宮野さん。水ぶつ掛けられるの、しょ
っちゅうだし」

「じゅーか、畠野さん」と話しても信じてくれないと嘆(なげ)つくな。

「じゃあ、もつと水かけてもいいのね」

「今日まだお断りします」

そういふと、畠野さんはムツとした顔で前を向きスタスタと歩いてしまった。

俺はそれを後から追つ。まあ、ちよつとつざけてるだけだと思ひただ。

「あ、着いた」

「本當ね、早く席に着きましょー。今日まだ何のケーキから食べべよ
うかしり・・・」

「何固食つ気だよ」

獻(あ)ぎれながらも、俺は畠野さんに囁(ささや)く。

「奥(おく)じゃない、別(べつ)に」

笑顔で返事を返してくれた畠野さん。

「いーナビ・・・・ハハッ

「ウフフ」

俺の笑いに釣られてか、富野さんも笑ってくれた。
そうしながら、俺と富野さんは喫茶店の中に入った。其の時の
俺は、さっきの事をすっかり
忘れていた。

何時もの場所で - - - - - 。

何時ものように過ぎす - - - - - 。

まさか、今日が『平和の終わる日』とは知りず - - - - -
- - - - - 。

- 1・平和の終わる日 - - - END

ついで。さつと1話が終わりましたよ。

んで、一日おきに更新つてゾーπ。（駄目だと思ひπ）
まあ、こんな亀みたいな更新テスけど、読んでくれたりしたら凄く
嬉しいんで。

感想もあつたら送ってください！！お願ひします！！！
では×2また次の話で。

山本遼

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7194m/>

collapse road

2010年10月10日00時30分発行